

私の主張

東京・大田区、中小のタイ進出支援

タイのアマタナコン工業団地(チョンブリ県)も成功しない」との声も出ています。入居企業にも製造業を誘致するための施設が06年6月に完成する。企業の海外進出を支援する大田区と、同区内企業への基礎技術を吸収したいタイ側の意向が一致し、実現した取り組み。現地職員による総務全般のサポートなど、入居企業への優遇も多い。ただ、すでにタイで活動する企業では「現地の品質基準は高まっており、安い人件

費だけを求めて進出して800平方メートルの敷地に、1部屋320平方メートルの作業場を8部屋備えた工場棟と、受付や共用の会議室を備えた管理棟を建てて建設費はアマタナコン工業団地はバンコクの南東、車で約1時間の距離にある。約380社が拠点を構え、その7割は日系企業。業種別では自動車や電機関連が多い。

大田区の外郭団体である大田区産業振興協会と同団地を経営するアマタナコン工業団地は、産業面での協力を目的に05年7月に覚書を締結。今回の工場施設建設は具体的な協力の第一弾となる。



施設名は「オオタクノパーク」……今年6月に完成するオオタクノパークのイメージ図(奥が工場棟、手前が管理棟)

田区)の並木正夫会長も「海外初進出の企業にとって、総務の面倒を見て

ク」。同団地東端の約7800平方メートルの敷地に、1部屋320平方メートルの作業場を8部屋備えた工場棟と、受付や共用の会議室を備えた管理棟を建てて建設費はアマタナコン工業団地はバンコクの南東、車で約1時間の距離にある。約380社が拠点を構え、その7割は日系企業。業種別では自動車や電機関連が多い。

大田区の外郭団体である大田区産業振興協会と同団地を経営するアマタナコン工業団地は、産業面での協力を目的に05年7月に覚書を締結。今回の工場施設建設は具体的な協力の第一弾となる。

施設内には日本語を話せるタイ人職員が常駐し、投資委員会(BOI)に提出する書類の作成や、法人登記、税務などの総務面を支援する。過去に数度、タイの産業を視察し、現地事情に詳しい並木金型(東京都大

6月にも現地施設完成 「オオタ」の技術、世界へ

くれるのは特に心強いはず」と評価する。しかし、いくら優遇されても、現地の技術ニーズに対応できなければ成



昨年7月に南武の本社工場を視察したアマタ・グループ最高経営責任者のウィックロム・クロマディット氏(左)。野村社長(中央)の説明に真剣に耳を傾ける

長は望めない。02年2月に同団地内に生産子会社を設立した南武(同)の野村和史社長は「現地の取引先から要求される品質は、日本国内での生産と同等のレベルにまで高まっている」と話す。

南武がタイ工場を開いたのは、主力商品の油圧シリンダーの標準部品を安い人件費でつくるため。05年に入って取引先から開発要員の設置を要

用しない」と強調する。審査する大田区産振協

も「区として恥ずかしくない企業を選びたい」とする。世界の企業が入居する工業団地に「オオタ」の名を冠する施設を建てることは、製造業における大田ブランドを世界に浸透させる絶好の機会となる。成功するかは、入居企業1社1社の技術力にかかっている。

点 描

(南東京・斉藤陽)

THIS WEEK

今週の予定